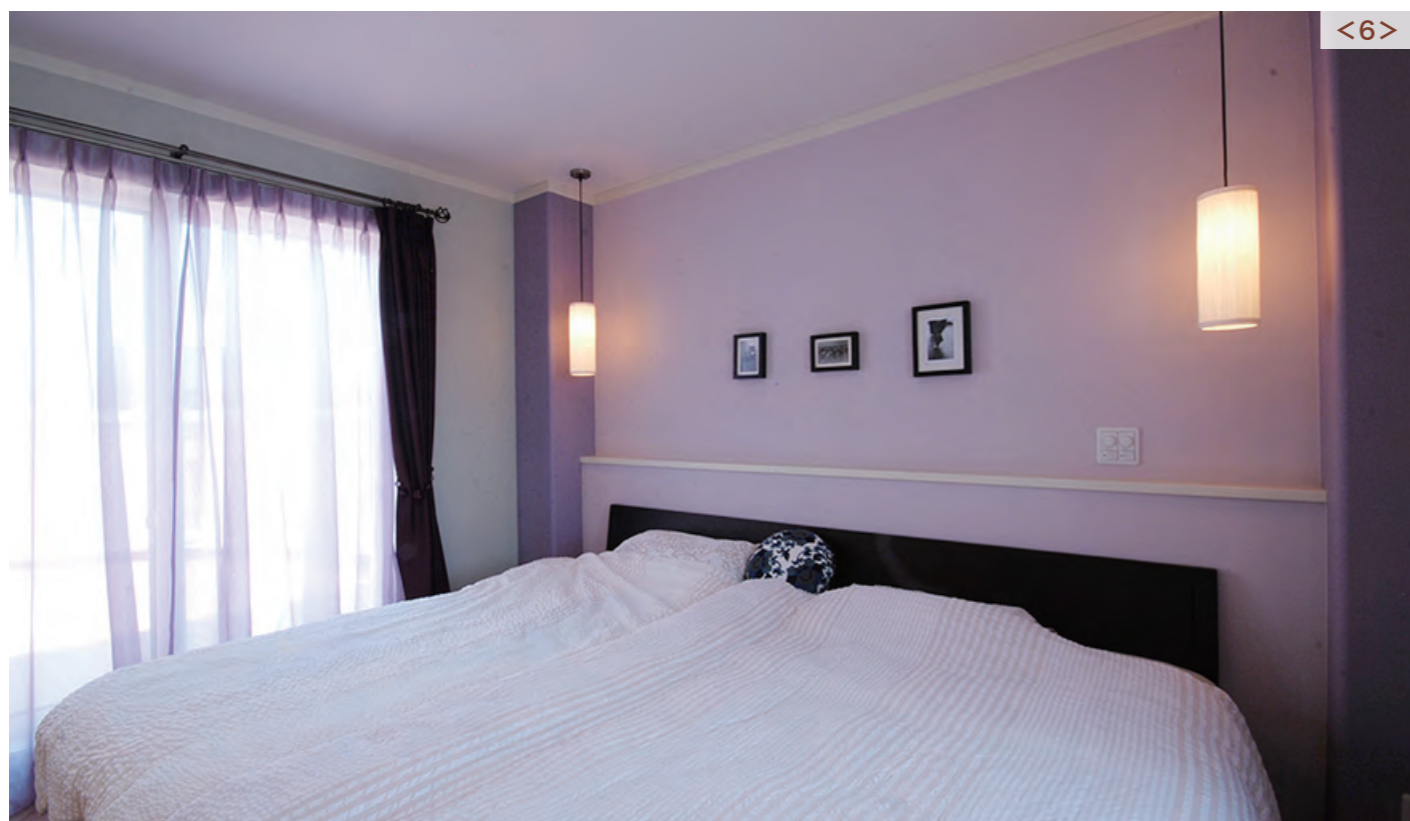


【右ページ写真】アクセントカラーの壁面以外は、落ち着いたカラーで構成されたダイニングルーム。アクセントカラーが彩度の強い色でも、他の仕上げ材と色の系統を合わせることで調和がとれ、空間にまとまりが生まれます。【写真1・4】アクセントカラーは壁紙だけでなく、モザイクタイル(2cm程度の角タイル)などでも代用できます。色の違いに加えて素材の違いも合わせることで、空間の質を高めることが可能です。【写真2】床の間の壁面をアクセントカラーとした和室。掛け軸や香炉を配した床の間に視線を集めることができ、良い気を集め、場のエネルギーを高める効果があります。【写真3・6】寝室にブルー系統のアクセントカラーを用いることで、脳の鎮静効果をもたらします。他の壁面を明るい色にすることで、寒々しい印象にならないようになっています。薄紫色(ラベンダー)は安眠に効果があるとされています。【写真5】曲線になっている面に、濃い色のアクセントカラーを用いると、包み込まれているような安心感を演出できます。水回りは冷たさを感じさせない暖色系の色を用いると良いでしょう。



Feng-Shui Gallery

special edition vol.44

～風水デザインが空間にもたらす影響を、スペースごとに考える～

『アクセントカラーの使い方 vol.2』



**白やクリーム色など、薄い色の壁面で構成されたお部屋でも
1面をアクセントカラーに変更することで
空間のイメージを大胆に変えることが可能です。**

分譲マンションや一般的な新築物件の場合、壁面は白色のクロスもしくは
薄い色のクロスであることがほとんどです。

それぞれのお部屋の使い方によって、壁を1面アクセントカラーに変えるだけでも
空間の質を高め、より快適に過ごすことができるようになります。